

文部科学省・岐阜県教育委員会指定「道徳教育地域支援事業」道徳教育パワーアップ実践校の指定をいただき、令和2年度から研究を進めて参りました。その間、先進校視察や文部科学省主催の道徳教育の研修への参加をはじめ、岐阜県教育委員会や飛騨教育事務所、飛騨市教育委員会や岐阜県道徳教育研究会の皆様から多くのご教示をいただき、研究を支えていただきました。心より感謝申し上げます。また、公表会・研究協議会が急遽オンデマンドやWEB会議システムによるオンライン開催となったため、非常に残念な思いを抱きましたが、飛騨教育事務所指導主事の皆様をはじめ、関係者の皆様方の臨機応変なサポートをいただきました。

さて、2018年4月に新たに歩み出した道徳教育は、「特別な教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない」とされており、学校全体でこの本流（道徳性を養う）を貫くことが強く求められています。

本校でも学校の教育目標である「心豊かに たくましく 未来を切り開く」を具現するために必要な資質・能力を、「自分から（主体性）自分で（自立性）自分なら（創造性）」に決め出し、全ての教育活動を通じて、道徳教育を基盤として、3つの資質・能力を育むよう経営構想と道徳教育の関係性を焦点化しました。そして、

1. 道徳教育の要である道徳科の授業でも、3つの自分を育むこと。
2. 道徳科と関連を意図し、全ての教育活動についての年間指導計画や別業を見直し、道徳的な心情や実践的態度を大切にしながら、3つの自分を育むための教育活動を改善すること。
3. 地域や家庭と連携し、ふるさと教育「古川やんちゃ学」の中で、道徳的価値の質や道徳的実践力を高めること

の3つの活動を重点に進めて参りました。

2年間の研究としては、まだまだ不十分な点が多いのですが、全国学力学習状況調査において、国語・算数の学習の定着率の高まりとこれまで本校が課題としていた項目での意識の高まりが顕著に見られるようになってきたことは、非常に嬉しい結果となりました。

（「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組む」「友達と話し合うことで、考えを広めたり深めたりする」「道徳や総合的な学習の時間に、友達と考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組む」「自分から地域や社会のためになることを考える」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」 その他50項目が全国平均を上回る）

また、地域や家庭においても、「みんなの学校」という意識で、PTAや学校運営協議会組織が動き出し、「将来の担い手をみんなで育む」サポーターやボランティアの方が増え、学校のトイレ清掃ボランティアや通学見守りサポーターに賛同してくださっています。そんな中で、「ふるさと教育優秀賞連続受賞」「中部管区防犯協会賞受賞」「学校子ども賞受賞」「小さな親切運動受賞」等、数々の賞をいただき、「学校を支える」から「みんなで育てる」意識が高まってきていることを実感しております。心より感謝と敬意を表します。

最後に、コロナ禍で自粛・制限されることが多かった2年間でしたが、最高学年として常に在校生を支え、先生方と共に古川小の歩みを創り出した昨年度・一昨年度卒業生と現6年生のリーダー達に感謝するとともに、全校の古川やんちゃっ子達がこの道徳教育の学びを、自分事としてとらえ、自分の未来を自分らしく切り拓いていってくれることを心から期待しております。